



### ● JALとの協業を追い風に

最初にJALから協業の機会をいただいたのは2014年。中部国際空港(セントレア)における企画として、三重県産食材のPRに連携して取り組んだのが始まりです。その後、JALから「三重県の誘客促進にもっと貢献したい」というありがたい提案を受け、取り組みを一層発展させるべく、「食」とは切っても切り離せない「観光」を含めた協定を2015年12月に締結しました。

協業が一気に本格化したのは、伊勢志摩サミット開催直前の2016年4月にスタートさせた、東海地方初となるJALとの地域コラボレーション企画です。JALの機内誌「SKYWARD」で三重県の特集記事を掲載したのははじめ、JALのホームページでは訪日外国人観光客向けに三重県の観光情報を多言語で発信。またJALの国際線機内ビデオで私とJALの大西賢会長との対談の模様を繰り返し放映するなど、大々的なキャンペーンを展開しました。さらに三重県産の食材を、羽田発着JAL国内線ファーストクラスやセントレア発バンコク線ビジネスクラスの機内食、セントレアのJALラウンジの

## 世界に誇る観光資源を協業で活かす

地域とともに

三重県知事 鈴木 英敬

「観光促進」と「農林水産物の6次産業化(\*)」をテーマに地域活性化への貢献を目指す「JAL新・JAPAN PROJECT」。

その一環として2015年12月、JALと三重県で「食」と「観光」に関する協定が締結されました。

伊勢志摩サミットの成功を契機に、三重県の地域振興を力強く進める鈴木英敬知事にJALとの協業の中身や今後の展望について話を伺いました。

(\*)1次産業としての農林水産業と、2次産業としての製造業、3次産業としての小売業などの総合的かつ一体的な推進を図り、地域資源を活用した新たな付加価値を生み出すこと。



すずき・えいけい●1974年8月15日、兵庫県生まれ。本籍地は三重郡菟野町。1998年東京大学経済学部卒業後、通商産業省(現経済産業省)入省。2011年36歳で三重県知事に初当選。2015年再選。内閣府少子化危機突破タスクフォース構成員、全国知事会危機管理・防災特別委員会委員長などに就任。



<http://japan.jal.co.jp/tokowakakon/>

### ● 「常若の精神」を感じる旅へ

評価されたことに対する喜びの声が数多く聞かれました。なかでも障がい者施設で栽培されている野菜が食材として採用されたことは、大きなニュースです。三重県では一人ひとりが輝く社会を目指して、4月から「ダイバーシティ社会推進課」を設置するなど、全国的にダイバーシティ(多様性)を推進しており、この観点からも素晴らしい事例になったと感じています。

三重県とJALのさらなる協業と

軽食として提供した結果、多くの方々に三重の食の魅力を知ってもらったきっかけとなり、各方面から大きな反響がありました。一つ強調したいのは、三重県産の食材が世界トップクラスのホスピタリティを誇るJALの機内食などに採用されたことが、わが県の多くの食材生産者や食材提供者たちの自信につながったということです。実質的なビジネスとしての成功はもちろん、味や品質が

して、今年2月より展開している新観光プログラム「常若婚」は、「日本人の心のふるさと」といわれる伊勢神宮が育んできた「常若の精神」がコンセプトです。「常若」とは、伊勢神宮で1300年以上前から続く20年に一度の儀式「式年遷宮」にちなんだ言葉で、「常に若く瑞々しいままで永遠に」という伊勢神宮の精神性を象徴しています。この「常若の精神」を伝承する伊勢の地をパートナーとともに訪れ、いつまでも変わらぬ絆を確認するための旅として企画したのが「常若婚」です。

「常若婚」は、日本人の精神性を体感するのに最もふさわしい「日本の文化聖地」といえる三重県ならではの企画であり、地域の方々から大きな共感と期待が寄せられています。日ごろなかなか口にできない感謝の言葉をパートナーに伝える貴重な旅のカタチとして、国内はもとより世界中の皆さまにご参加いただけるよう、魅力的なプログラムに育てていきたいと考えています。

### ● オール三重で取り組む

おかげさまで三重県では、伊勢志摩サミット開催を契機に観光面でも注目が集まり、2016年度の延べ宿泊者数(日本人と外国人の合計)は過去最多となる1000万人を突破しました。とはいえ、今後のさらなる観光振興、地域活性化につなげるためにはアクセルを踏み続けなければなりません。その意味で、JALとの協業はますます重要になってくると考えています。

三重県には「伊勢神宮」だけではなく、「忍者」や「海女」、「世界遺産熊野古道伊勢路」など、世界に誇る観光資源がたくさんあります。こうした貴重な県の財産を積極的に活かすとともに、「常若婚」のような新たな切り口で魅力ある観光プログラムを次々と誕生させることで、国内外からの誘客促進や地域経済の活性化につなげていけるものと考えています。今後ともJALが持つ観光誘客のノウハウや国内外のネットワークを最大限に活用させていただきながら、私たちが常に時代の先を見据えて「オール三重」で取り組むことによって、県単独では実現できない大きな事業成果を創出していきます。

